

島尾敏雄生誕100年記念事業祭



配給：フルモデルモ、スターサンズ© 2017
島尾ミホ／島尾敏雄／株式会社ユマニテ

① 映画「海辺の生と死」(特別上映)

出演：満島ひかり・永山絢斗ほか 脚本・監督：越川道夫
原作：島尾ミホ「海辺の生と死」島尾敏雄「島の果て」ほかより

●日 時：平成 29 年 7 月 7 日 (金) ① 13 時 30 分～ ② 18 時 30 分～

●場 所：奄美文化センター (※各開場は、30 分前より)

●入場料：一般 1,300 円 (当日 1,500 円) / 中・高生 1,000 円

※エキストラには、地元在住者も多数、参加しています。 / ※全席自由席

●プレイガイド：あまみエフエム・ディ!ウェイヴ・楠田書店・セントラル楽器・TSUTAYA 名瀬店・ブックス十番館プラス1



② 島尾文学の地を訪ねて 加計呂麻島散策ツアー

A. 名瀬からご参加 (定員 先着 50 名)

集合場所／奄美市役所玄関前 (午前 8 時 45 分時間厳守)

参加費／3,000 円 (バス・船代・弁当・飲料・保険含む) は、当日持参のこと。

申し込み先／FAX 0997-52-1222 (事務局) ※住所・氏名・年齢・TEL を明記のこと。

B. 古仁屋からご参加 (定員 先着 20 名)

集合場所／瀬戸内町立図書館・郷土館 (午前 10 時時間厳守)

参加費／1,500 円 (船代・弁当・飲料・保険含む) は、当日持参のこと。

申し込み先／FAX 0997-72-3999 (瀬戸内町立図書館・郷土館)

※服装／海岸線を歩くため、軽装および滑らない運動靴などを着用のこと。

●旅程／①奄美市役所 (午前 9 時出発) → 瀬戸内町立図書館・郷土館着 (島尾敏雄文学コーナー見学) → 古仁屋港出発 (貸し切り船) → 加計呂麻島・押角集落着 → 旧大平家跡 (ミホさん実家) 等見学 → 押角から呑之浦への海岸線を歩く (島尾隊長とミホの逢瀬の浜) → 第18震洋隊壕跡、島尾敏雄文学碑、墓碑等の見学 → 昼食 ②午後 2 時より、加計呂麻島展示・体験交流館 (諸鈍) にて、映画『死の棘』監督、小栗康平氏講演会・映画『死の棘』鑑賞 → 帰路へ

③ 講演・シンポジウム「島尾敏雄と奄美」(無料)

■場所／鹿児島県立奄美図書館4F

講演 / 13時10分～14時30分

シンポジウム / 14時50分～16時50分



梯 久美子(かけはし くみこ)

作家。1961年熊本市生まれ。北海道大学文学部卒。デビュー作『散るぞ悲しき 硫黄島総指揮官・栗林忠道』(2005)で大宅壮一ノンフィクション賞、奄美に通って取材・執筆した『狂うひと「死の棘」の妻・島尾ミホ』(2016)で読売文学賞および芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。

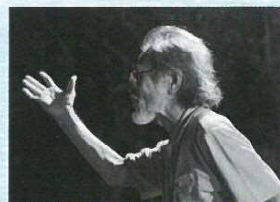


梯 久美子(かけはし くみこ)
作家



西尾 宣明(にしお のぶあき)

日本近代文学専攻。プール学院大学短期大学部教授。島尾敏雄については、35年以上にわたりその小説の研究を続けている。著書に『南島へ南島から—島尾敏雄研究—』和泉書院など。



川満 信一(かわみつ しんいち)

詩人。1932年沖縄県宮古島生まれ。元沖縄タイムス記者。1956年、島尾敏雄と出会い、思想書に接近。『川満信一詩集』(オリジン企画)の解説は島尾敏雄。1975年沖縄タイムス芸術選奨助賞(文学)受賞。



越川 道夫(こしかわ みちお)

1965年静岡県生まれ。97年に映画製作・配給会社スローラーナーを設立。プロデューサーとして、国内外の映画祭などで複数受賞した。2016年には『アキノ』で脚本・初監督、第30回高崎映画祭で最優秀主演女優賞(山田真歩)とホリゾント賞(監督)を受賞。



築島 富士夫(つきしま ふじお)

1931年旧名瀬市生まれ。元旧名瀬市助役。仲間と立ち上げた読書会や、市役所在勤当時、作家や編集者などを島尾のもとへ案内するなど親交があった。『ヤポネシア論』に触発され、奄美の戦後史を検証する時、島尾敏雄は重要と考えている。



総合司会/内 美登志(うち みとし)
NHK鹿児島局シニアアナウンサー。昭和37年、枕崎市に生まれ。昭和63年NHK入局。函館、仙台、東京などに勤務し、平成27年に鹿児島に異動。去年6月の『ラジオ深夜便』で、「島尾敏雄没後30年」を全国に発信。